

科目	応用数学 II	種別	小テスト	実施日	H17.12.22
学年	年	学籍番号		氏名	

偏微分方程式 $\frac{\partial^2 u}{\partial t^2} = \frac{\partial^2 u}{\partial x^2}$ ($0 < x < 1, t > 0$) について、以下の問に答えなさい。

(i) 変数分離法を用いて、 $u(x,t)$ の一般解を求めよ

(ii) 次の境界条件を満たす解 $u(x,t)$ を求めよ。

$$u(0,t) = 0, u(1,t) = 0$$

(iii) (ii) の境界条件を満たし、かつ、次の初期条件を満たす解 $u(x,t)$ を求めよ。

$$u(x,0) = \sin x, \frac{\partial u(x,0)}{\partial t} = 2 \sin 2x$$

(解答例)

(i) $u(x,t) = X(x)T(t)$ とおくと、 $\frac{\partial^2 u(x,t)}{\partial x^2} = X''(x)T(t)$ 、 $\frac{\partial^2 u(x,t)}{\partial t^2} = X(x)T''(t)$ となり、これらを与式に代入すると、

$$X''(x)T(t) = X(x)T''(t)$$

$u(x,t) = X(x)T(t) \neq 0$ において上式を除すと、 $\frac{T''(t)}{T(t)} = \frac{X''(x)}{X(x)}$ となり、この関係が常に成立するためには、

$$\frac{T''(t)}{T(t)} = \frac{X''(x)}{X(x)} = \mu \quad (\text{ただし } \mu \text{ は未定定数}) \text{ とならなければならない。したがって、}$$

$$X''(x) - \mu X(x) = 0 \quad (1)$$

$$T''(t) - \mu T(t) = 0 \quad (2)$$

$\mu = 0$ のとき、式(1)の一般解は $X(x) = Ax + B$ 、式(2)の一般解は $T(t) = Ct + D$ となる。よって、

$$\underline{u(x,t) = X(x)T(t) = (Ax + B)(Ct + D) \quad (\text{ただし、} A, B, C, D \text{ は未定定数})}$$

$\mu \neq 0$ のとき、式(1)の一般解は $X(x) = Ae^{\sqrt{\mu}x} + Be^{-\sqrt{\mu}x}$ 、式(2)の一般解は $T(t) = Ce^{\sqrt{\mu}t} + De^{-\sqrt{\mu}t}$ となる。よって、

$$\underline{u(x,t) = X(x)T(t) = (Ae^{\sqrt{\mu}x} + Be^{-\sqrt{\mu}x})(Ce^{\sqrt{\mu}t} + De^{-\sqrt{\mu}t}) \quad (\text{ただし、} A, B, C, D \text{ は未定定数})}$$

(ii) $\mu = 0$ のとき、境界条件より、 $u(0,t) = BT(t) = 0$ 、 $u(1,t) = (A+B)T(t) = 0$ となる。

$T(t) \neq 0$ の場合も成立するためには、 $A = B = 0$ 。よって、 $u(x,t) = 0$ となって不適である。

$\mu \neq 0$ のとき、境界条件より、 $u(0,t) = (A+B)T(t) = 0$ 、 $u(1,t) = (Ae^{\sqrt{\mu}} + Be^{-\sqrt{\mu}})T(t) = 0$ となる。

$T(t) \neq 0$ の場合も成立するためには、 $A+B=0$ 、 $Ae^{\sqrt{\mu}} + Be^{-\sqrt{\mu}} = 0$ となる必要がある。よって、

$$A = -B, A(e^{\sqrt{\mu}} - e^{-\sqrt{\mu}}) = 0$$

$u(x,t) \neq 0$ であるためには $A = -B \neq 0$ であるから $e^{\sqrt{\mu}} - e^{-\sqrt{\mu}} = 0$ 。 $\mu > 0$ のときには常に $e^{\sqrt{\mu}} > e^{-\sqrt{\mu}}$ なので、

不適であり、 $\mu < 0$ でなければならない。 $\mu < 0$ のとき、 $i > 0$ である定数を用いて、 $\mu = -i^2 = (i)^2$ とおくと、

$$e^{\sqrt{\mu}} - e^{-\sqrt{\mu}} = e^i - e^{-i} = 2i \sin 1 \neq 0$$

上式が成り立つためには、 $i > 0$ より $i = n$ 、 $n = 1, 2, \dots$ 。したがって、

$$u(x,t) = X(x)T(t) = A(e^{ix} - e^{-ix})(Ce^t + De^{-t}) = A2i \sin x \{ (C+D) \cos t + i(C-D) \sin t \}$$

$$= \sin n x (a \cos n t + b \sin n t) \quad (\text{ただし, } n=1,2,\dots)$$

ここで, $a = A2i(C+D)$, $b = A2i(C-D)$ とおいた. $u(x,t)$ に添え字 n をつけると,

$$u_n(x,t) = \sin n x (a_n \cos n t + b_n \sin n t), \quad n=1,2,\dots$$

解の重ね合わせの法則より, 求める解は

$$u(x,t) = \sum_{n=1} u_n(x,t) = \sum_{n=1} \sin n x (a_n \cos n t + b_n \sin n t)$$

(iii) 初期条件より,

$$u(x,0) = \sum_{n=1} a_n \sin n x = \sin x$$

$$\frac{u(x,0)}{t} = \sum_{n=1} b_n n \sin n x = 2 \sin 2 x$$

式(3)が成立つためには, $n=1$ のとき, $a_1 = 1$, $n=1$ 以外の項で全ての項で $a_n = 0$ でなければならない. また, 式(4)が成立つためには, $n=2$ のとき, $b_2 = 1$, $n=2$ 以外の項で $b_n = 0$ とならなければならない. 以上より、求める解は以下となる.

$$u(x,t) = \sin x \cos t + \sin 2 x \sin 2 t$$
